

釜川周辺の特色あるエリアづくりに向けた官民連携による取組について

1 背景・経過

(1) 民間主体の取組が先行するエリア

釜川周辺は、魅力づくりを行う学生中心の任意団体や建築物のリノベーション等を行うまちづくり会社が設立されるなど、民間の主体的なまちづくりが進められている。

(2) 官民連携によるまちづくりの必要性の高まり

- ・ 国においては、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成に向けて、民間主体・行政支援の取組を支援する制度が創出されるなど、官民連携まちづくりを促進している。
- ・ 本市においては、「第3期中心市街地活性化基本計画」に、民間や住民等が主体となる「エリアマネジメント促進事業」を活性化戦略として新たに位置付けたところである。

2 官民連携に当たっての基本的な考え方

人口減少・少子超高齢社会において、持続可能なまちづくりを進めるためには、まちの主役である住民や事業者等の民間における社会的な課題の解決に資する主体的な活動を尊重・支援し、官民連携による取組として積極的に推進していく。

3 釜川周辺における取組の概要

(1) 目的

低・未利用地の解消に向けて、釜川周辺に居心地が良く魅力的な「空間」を構築し、多様な「ヒト」を惹きつけることで、住民を始めとした多くの方々の交流を促進するとともに、様々な「コト」が生まれるクリエイティブなエリアづくりに官民連携で取り組むもの。

(2) 取組の名称（プロジェクト名）

釜川クリエイティブエリア促進プロジェクト（カマクリプロジェクト）

※ 国土交通省「官民連携まちなか再生推進事業」（令和2年度新規事業）に申請し、採択

(3) 主体

カマクリ協議会（多様な主体が交わるエリアのプラットフォーム）

【構成団体】

地域住民を始め、関係団体や釜川エリアで主体的な活動を行う事業者
⇒ 自治会、商店街振興組合・商店会、地域団体、まちづくり会社、地元大学、宇都宮市

(4) 対象エリア

御橋から井登橋までを中心とした釜川周辺



(5) 取組内容（詳細は、別紙のとおり）

釜川周辺の公共空間や民間ストックがエリアの魅力づくりに資する可能性について、実証実験を通し検証しながら、官民一体となったエリアの将来像を策定する。

【令和2年度の取組】

項目	内容	備考
実証実験等	民間ストック活用， 河川環境調査 等	内閣府「地方創生推進交付金」を活用 ※ 補助率 1/2
エリアの 将来像	<div style="text-align: center;">  <p>協議会の運営， 大学との共同研究 等</p> </div>	国土交通省「官民連携まちなか再生推進事業」を活用 ※ 定額補助 (10/10)

ア エリアビジョンの策定と合わせた実証実験等

(7) ポテンシャルの実証実験等

● 都市部における水と緑の空間を生かした魅力づくり…【空間】

- ・ 街なかにおける水辺のいきものとふれあえる空間の創出に向けて、釜川の上流から下流までのそれぞれの区間において生息する水棲動植物を把握するとともに、街なかにおける定着の可能性を検証する。
- ・ 釜川沿いを安心・安全に歩ける歩行空間の創出と合わせて、川を眺められる上空にせり出したテラス席の設置や、周辺店舗と連携した河川空間の活用など、川の魅力を生かした官民連携による空間形成の効果等を検証する。

● 遊休空間を活用した新たな活動の促進…【コト】

都市緑化や建物の熱エネルギーの効率化などの都市的な課題の解決に資するよう、その手法の1つとして、空きビル等の上層階や屋上・ベランダといった遊休空間を活用した都心部における農作物の生産性や事業性を検証する。

(4) エリアに関わる人づくり

● 地域との交流を生み出すクリエイティブ人材の集積…【ヒト】

釜川周辺エリアにおいて、住民を始め、多様な人の交流が生まれる「空間」や「コト」を創出するため、アートやデザイン、まちづくりなど各方面で活躍する講師によるレクチャーイベントの開催を通し、当該エリアに継続的かつ積極的に関わる様々な分野のクリエイティブ人材の発掘・育成を行う。

イ 釜川周辺の将来像「エリアビジョン」の策定（官民連携の仕組み構築）

釜川周辺エリアに係る官民連携まちづくりの指針として、官民それぞれが有する空間の在り方やその実現に向けた施策等について検討し、エリアのビジョンを策定する。

4 全体スケジュール

令和2年度	協議会の設立・運営 エリアビジョンの策定作業（各種調査・検証，共同研究等）
令和3年度	エリアビジョンの策定
令和4年度～	エリアのプロモーション・PR，ビジョン実現に向けた各種取組

令和2年度の取組

官民連携の仕組み構築 … 【仕組み】

釜川周辺の将来像「エリアビジョン」の策定

【目的・ねらい】

持続可能なまちづくりを行うためには、担い手となる民間主体の活動が不可欠であり、まちづくりを積極的に行うエリア内の民間と目指す将来像を共有し、その実現に向けて協働するため、エリアビジョンを官民で策定する。

【取組の概要】

- 地域住民・団体、商工関係者、まちづくり活動を担う会社・団体、宇都宮大学、宇都宮市による協議会（エリアプラットフォーム）を構築・運営
- エリアビジョン策定に係る調査・検討、実現性を検証する実験等
- クリエイティブ人材の集積に向けたネットワーク形成
- エリアビジョンの検討・策定

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度～
内容	<p>エリアプラットフォームの構築</p> <p>エリアビジョンの策定</p> <ul style="list-style-type: none"> エリアビジョンに係る調査・検討 国内外におけるネットワーク構築 エリアビジョンの検討・策定 		<p>エリアビジョンの実現に向けた各種施策・事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報発信、PR 社会実験、データ活用 交流拠点整備

エリアを担う人づくり … 【ヒト】

クリエイティブ人材を育てる「カマガワクリエイティブスクール」の実施

【目的・ねらい】

クリエイティブエリアの確立に向けて、釜川周辺エリアに関わる主体的な活動者や、イノベーション、事業等を起こす人材の育成・発掘を促すレクチャーイベント「カマガワクリエイティブスクール」を開催

【取組の概要】

- 9/19 18:00～ 漫画家 山田しいた（SNS運用と宇都宮の地域ブランディング）
- 10/31 18:00～ アーティスト 飯田団紅（口伝・せっぽくびすとるず以前以後）
- 11/28 18:00～ つくば市副市長 毛塚幹人（都市を人の手に戻す行政の試み）
- 12/19 18:00～ 都市デザイナー 桂有生（創造のエッジと俗の間で生まれる都市デザインの詩）
- 1/23 18:00～ キュレーター 青木彬（ローカルから考える暮らしの中の想像力）
- 2/27 18:00～ 美術家 開発好明（アート・アクティビズム）

ポテンシャルの調査・検証 … 【空間・コト】

河川環境調査及び水棲動植物の定着可能性の検証

【目的・ねらい】

釜川の水辺空間の活用にあたり、水棲動植物の生息状況及び水質等の自然環境データを収集するとともに、上流部において確認される絶滅危惧種を始めとした豊かないきもの街なかにおける定着可能性について検証する。

【取組の概要】

- 直線的かつ効率的にコンクリートの護岸が整備され、いきものが定着しにくい環境である街なかの区間において、現況の調査や定着性の確認
- 河川内に、いきものの居場所となる石カゴを設置
- 釜川の上流部（源流付近）、中流部（二層化付近）、下流部（街なか）のそれぞれの区域に生息するいきものを捕獲調査（投網、長ぶくろ網等）



河川空間のオープン化による周辺不動産への波及効果の検証

【目的・ねらい】

作業場として屋外空間の活用可能性や、単にイスやテーブルが設置されるだけでなく、飲食提供の機能との複合化による良質な環境の形成により、周辺の物件や当該エリアにどのような効果があるか検証する。

【取組の概要】

- 民間事業者による河川敷地の利用を可能にする河川敷地占用許可準則の特例（河川空間のオープン化）の社会実験として実施
- 居心地の快適性を高めるイス、テーブル等のファニチャーを設置するほか、周辺店舗と連携した飲食物の提供
- 公共空間の弾力的な活用による周辺物件等への波及効果の検証



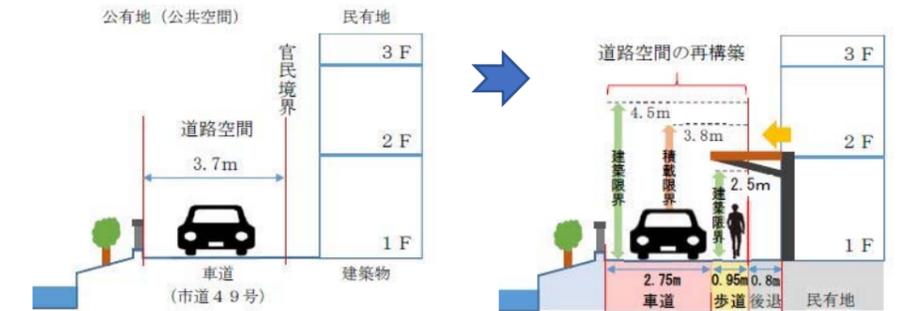
歩行空間の創出に合わせた親水性の高い道路上空利用の社会実験

【目的・ねらい】

川を眺められる親水性の高い空間を創出や上層階の活動の可視化を図るため、道路構成の再配分により歩道を構築し、その上空に建築物からせり出したテラス席を設置することの実現性や安全性について検証する。

【取組の概要】

- 現況、車道のみである川沿いの道路を、車道と歩道の道路に再構築
- 親水性の高い歩きやすい環境を整備
- 車道である道路の一部を歩道にみなすことで、道路上の建築限界の基準を緩和し（車道4.5m ⇒ 歩道2.5m）、2階レベルの高さから連続した親水性の高いテラス席を設置



遊休空間を活用した都心部における農作物の生産性等の検証

【目的・ねらい】

水耕栽培キットの開発を通し、新たなビジネスとして、空きビルの上層階や屋上、ベランダ等の遊休空間を活用した都市農業の実現に必要な基礎的な情報・条件を定量的・定性的に把握し、今後の実現可能性を検証する。

【取組の概要】

- 機材設置上の課題（使用・設置方法や日照等の条件、イニシャルコスト等）や、運用上の課題（育成状況、人件費や販路等のランニングコスト）を検証
- 水耕栽培で育成した野菜を流通させ、周辺の飲食店や八百屋等の野菜小売店の卸売ニーズを把握

